

月報	日本キリスト改革派 横浜中央教会	6月号 2011年6月19日
-----------	-----------------------------	---------------------------

震災後3ヶ月

I. N

東日本大震災から3ヶ月が過ぎました。遂、この間まで職場などでも、休憩時間などで、何かしらの震災関係の話をしていたと思うのですが、いつの間にか、日常の話題も震災以前と変わらなくなってきていると感じています。被災地の方々を覚えて祈りをささげても、被災地の方々の生活や、どういう思いで毎日過ごされているのかという事を想像することが少なくなってきている事を感じます。

私たちクリスチャンは、本当に苦しい時に、最も力ある方に頼る事ができる恵みが与えられており、この方に全てを打ち明けて助けを呼び求めれば、そこから先はあれこれ心配する必要は無いということ、聖書から教えられています。震災後、政治も経済も更に不安定になっている現在、神様を知らない多くの人々は（被災地の方であるかなしかに関わらず）何を心の支えとして、毎日過ごしているのだろうかと思うことがあります。

そこで考えてしまうのは、こういう不安定な世情の時に、人々の不安を煽る偽物の宗教が再び蔓延して来るのではないかと心配しています。今、大阪で日の丸・君が代を国公立の教職員に強制する動きが強まっていますが、このような動きも、国難に遭っている国民の、何か一つの事によって、お互いに団結したいという気持ちをも利用しているのではないかと思えてなりません。私たちの教会にも、これからも多くの不安を抱えて色々な方が来会されると思いますが、私たちのささげる礼拝が唯一の、真の神様をほめたたえるものである時に、この世に対しても最も良い証しを立てられるのだと思います。

不安を煽るような情報が飛び交うこのような時にこそ、落ち着いた信仰生活を送り、キリスト者としての務めを果たしていかななくてはと思います。

新しい家族の誕生

A. H

主の御名を賛美致します。

4月29日に我が家に待望の赤ちゃんが与えられました。****グラムで女の子です。名前は、神様の愛を大きく咲かせてほしい、また神様と人々から愛される人になってほしいという願いを込めて*****と付けました(エフェソ 3:17、コロサイ 3:12-15)。

妊娠から出産までは母子共に本当に順調すぎるくらいで、主に守られている日々を感じつつ、新しい生命と出会うことを期待して過ごす毎日でした。4月29日は私たちの結婚記念日でもあるため、みなとみらいでお祝い会の食事をして公園を散歩して帰ってきたのですが、ちょうど帰宅直前に出産の前兆がありました。結婚記念日に、しかもお祝い会を済ませてからの出産とは神様もずいぶん粋なことをされるなど感じながら、病院へ駆け込みました。

病院到着から出産まで3時間、分娩室に入ってからわずか15分という、初産にもかかわらずあっという間の超ウルトラスピード出産でした。それによる副作用が母子ともにありましたが、全てが主によって守られ、結果的に益とされたことを思うと、唯々、主に感謝するのみです。

今回、立会出産だったため、医師と看護師との緊迫したやり取り、頸管裂傷による大量出血を目の当たりにし、また赤ちゃんの状態について説明を受けた時は、ショックで卒倒しそうになりました。一瞬にしてひとりぼっちになってしまうかもしれないという不安感を覚え、自分の無力さを痛感するとともに、主により頼むしかない、祈るしかないという思いにさせられました。

妻、子ともに主の支えと省みの中で驚異的に回復し、今では妻も自宅で十分に家事をこなせるようになっていました。また子もNICU(新生児集中治療室)で適切な処置が施されたことにより、退院時には通常の赤ちゃんと変わらないほどにまで回復し、今では元気いっばいで、泣き×2、ミルク、泣き×2、ねんね、泣き×2で、こちらも泣き×4の毎日です。

新米パパとして右往左往する日々ですが、授かった新しい生命を主の契約の恵みに与える者として育てる責任を感じつつも、仕事に追われる毎日を過ごしています。少しでもイクメンに近づけるようがんばります。

※個人情報保護のため、文の一部を伏字 or 変更させていただきました。

友達を教会に誘う

T. I

小学校から社会人までキリスト教系の学校等で過ごしたことはなかったの
で、教会の友達に教会の友達。学校の友達は学校の友達と別々に付き合っ
てきました。周囲の友人だらけ私かクリスチャンで教会に通っていることは知
っていましたが、教会に誘ったことなどは一度もありませんでした。私か始
めて友達を教会に誘ったのは結婚式の時です。

結婚したのが24歳だったので、友人の中でも早いほうでした。初めて結
婚式に出席するという友人も多くいました。最初に出席した結婚式は記憶
に残るんじゃないかなと思ひ、呼べるだけの友人を招待し、教会に足を運
んでももらいました。また、本当のキリスト教の結婚式を体験してもら
うよい機会にもなったと思ひています。

ここ1年ほど、近所のグラウンドを貸しきってサッカーをしています。私
は見ただけで言君がやっているのですが、そこにはいろいろな人が来
ます。言君の友達、私の兄の職場の人、私の友達、教会の友人達。1つ
サッカーをするという目的のもとに面識のない人々、普通に生活してい
たら出会わない人が集まってきます。その中にはクリスチャンもいま
すがもちろん、教会には一度も行ったことのない人がいたりします。そ
んな人たちがサッカーをすることで仲良くなっていくのです。私か誘
う友達は、結婚式に来てくれた人なので、あーあの教会に通ってるんだ
。あの時いたんだね。など、結婚式が、教会に通っている人だちとの
小さい共通点になっています。

私のクリスチャンの友達と学校などでできたクリスチャンでない友
達が知り合いになり楽しそうに話しをしている。今はまだそれだけで
うれしくなったり楽しくなったりしています。これから先、教会へ行く
きっかけになったりキリスト教に興味をもつきっかけの一つになる
ことを願っています。